

第3学年 国語科学習指導案

1. 単元名 学習したことを生かして「モチモチの木」

2. 単元のねらい

- 音読交流会をしようという目的に向かって意欲的に読み取り、自分の考えや友だちのよさを生かしながら、音読を工夫しようとする。【関心・意欲・態度】
- 場面の情景や移り変わりを、叙述をもとに想像し、場面の様子、語り手や登場人物の気持ちが聞く人によく分かるように声に出して読むことができる。【読むこと・言語事項】
- 自分の考えが分かるように筋道を立て、根拠を明らかにして話したり、話の中心に気をつけて聞いたりし、互いの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うことができる。【話す・聞く】

3. 指導にあたって

こんな子どもだから

- 本学級の子どもたちは、国語の授業の始めや家庭学習の中で、音読の時間をとって練習したり、名作集の暗唱に進んで挑戦したりすることで、音読の工夫への意欲を高めている。
- 物語教材「きつつきの商売」の学習では、家の方を招待して音読発表会を開き、「森の中にいるようだ」と思ってもらえるよう、擬音語・擬態語や動物たちのせりふを中心に音読を工夫してきた。「三年とうげ」では、おじいさんの気持ちの変化を考え、それが表れるようなせりふの言い方を交流している。詩教材「わたしと小鳥とすずと」や金子みすゞのその他の詩の学習では、情景や作者の思いを読み取り、音読記号を使って読み方の工夫を考え音読交流を行った。自他の音読の交流から互いのよさを見つけ、それらを生かしながら音読を工夫しようとする意欲を高めてきている。しかし、交流の際、声の大きさに意識が集中する傾向が強い。
- 本単元では、これまでの学習を生かし、登場人物になりきってせりふを言ったり、強さ・速さ・間の取り方などを工夫したりしながら情景や心情がよく伝わってきたかどうかの視点に立って意見交流を行い、互いのよさを生かしよりよい音読の在り方を考えさせたい。

〇〇キラキラ学習とのかかわり

- 子どもたちは、話の中心や段落などを意識した話し方や、話の大事な部分を落とさずに聞いたり、自分と比較したりすることが少しずつ身に付いてきている。また、自分の伝えたいことがより分かりやすく相手に伝わるように、表現物を用意して効果的に利用することへの意識も高まってきた。国語科での表現物を用いた説明・発表やそれに対する意見交流の形態が〇〇キラキラ学習にも生かされている。
- 本単元では、場面の様子や語り手・登場人物の気持ちなどを深く読み取った上で、音読の工夫によってそれらを聞き手に伝える活動を行う。自分の思いを相手に伝えるために工夫した点を述べたり、相互評価をしたりして音読の交流をする。一文一文を深く読み取ったり、登場人物と気持ちを重ね合わせたりしながら音読を工夫させることを通して、個々の感じ方や考え方、表現の仕方には似たところや違ったところがありそれぞれによさがあることに気付かせていきたい。自分と友だちの考えを比べ、互いのよさや共通点・相違点に気付くこと、また、それらを生かすことは、〇〇キラキラ学習の交流での自分の考えを広げたり深めたりする学習に生きていくものとする。

こんな支援で

- 場面ごとに中心文を示して各場面の様子や語り手・登場人物の気持ちなどに迫らせ、音読に生かすことができるようにする。
- 独話活動の流れに沿った音読交流のプログラムを構成し、相互に音読の仕方に込めた思いや表現の仕方のよさを自分と比べながら伝え合うことができるようにする。
- よりよい音読を工夫したいという意欲を高めることができるよう、自他のよさを生かして音読の在り方を考えたり練習したりする活動を重ねるとともに、日頃読み聞かせをしていただいている「〇〇〇の会」の方に自分たちの頑張りを披露する場を設定する。

こんな力を

- 場面の情景や移り変わりを、叙述をもとに想像し、場面の様子、豆太やじさま、語り手など登場人物の気持ちが聞く人によく分かるように、強さ・速さ・間の取り方などに気をつけながら声に出して読んだり、読み方のよさを聞いたりすることができる。
- 自分の考えが分かるように筋道を立て、根拠を明らかにして伝えたい場面の様子や登場人物の気持ちと音読の工夫を話したり、友だちと自分の共通点・相違点などを話すことができる。
- 「〇〇〇の会」の方へ音読を聞いていただく会をしようという目標に向かって、意欲的に読み取り、自分の考えや友だちのよさを生かしながら音読を工夫しようとするすることができる。

4. 主な学習活動と内容・評価規準および教師の支援（18時間）

学習過程 (配時)	主な学習活動と内容	評価規準 (評価方法)	教師の支援
つ か む (3)	<p>1. 題名と「おくびょう豆太」を読み、豆太の変化を予想して、読み通しのめあてを立てる。①</p> <p>○ 読み通しのめあて作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名の「モチモチの木」についての話し合い ・おくびょう豆太とモチモチの木の様子の読み取り ・結びの文をもとにした読み通しのめあてづくり <p>読み通しのめあて</p> <p>夜中に一人でせっちんへ行けず、モチモチの木がこわいおくびょう豆太がどうなるお話だろう。</p> <p>2. 全文を読み通して、挿し絵と見出しを手がかりにあらすじをとらえる。</p> <p>○ 読み通しのめあての予見立て ①</p> <p>予想される子どもの予見</p> <p>・豆太は勇気のある子になった ・豆太は勇気を出したけど臆病なままだ ・豆太は、自分に自信をもてるようになった</p> <p>○ 新出漢字の練習や言葉の意味調べ ①</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>活動の内容と手順が分かり、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取り、音読で表現しようとする意欲を高めている。(発言・行動観察)</p>	<p>※ 豆太がおくびょうであることが分かる文を一の場面から見つけさせ、読み通しのめあてにつなげていくようにする。</p> <p>※ 挿し絵の順序を確認し、見出しと対応させながら物語全体のあらすじをつかませるようにする。</p>
さ ぐ る (13) 本時 13 / 18	<p>4. 場面ごとに登場人物の気持ちや場面の様子を読み取り、どのように読めばよいか考え、音読の練習をし、交流する。③</p> <p>○ 場面の様子、人物の気持ちの読み取り</p> <p>○ 読み取ったことを伝える音読の練習</p> <p>○ 音読交流（本時）</p> <p>交流の進め方</p> <p>(1) 代表の音読者による発表 学習プリントをもとにどのような音読をするのかを説明してから音読をする。</p> <p>(2) 自由発言による意見交流 自分が捉えていた場面の様子、語り手・じさま・豆太の気持ちやそのための工夫と音読者とを比べて感想やおたずねをする。 音読者の発表を受けて感想やおたずねをし、自他のよさを見つけたり、この場面についての考えを深めたりする。</p> <p>(3) 音読者の感想 交流をしての感想を二人の音読者が述べる。</p> <p>(4) 教師による感想 本時の交流について子どもたちのよさなどについてコメントする。</p>	<p>【読む】</p> <p>場面の様子や気持ちを想像し、聞き手に分かりやすく伝えることができている。 (行動観察・学習プリント)</p> <p>【言語】</p> <p>聞き手に分かりやすい声の大きさや速さで音読することができている。 (行動観察・学習プリント)</p> <p>【話す・聞く】</p> <p>自他の音読のよさについて進んで話し合うことができている。 (行動観察)</p> <p>【関・意・態】</p> <p>友だちの音読のよさやがんばりを伝え合い音読を工夫して、物語の楽しさを味わうことができている。 (行動観察・学習プリント)</p>	<p>※ 場面の様子、登場人物・語り手の気持ちのどんなところが伝わるように読みたいか、そのためにどの部分をどのように工夫して音読するかをまとめられる学習プリントを準備し、書き込ませたものを確かめながら練習できるようにする。</p> <p>※ 音読交流の際、聞き手が音読者のよさや自分の工夫点との違いを記入できる学習プリントを準備し、活発な自由発言ができるようにする。</p> <p>※ 音読交流会において、発表や音読の仕方のよくなった点について認め、励ましていく。</p>
ふ り 返 る (2)	<p>5. 音読発表会に「○○○の会」の方を招き、聞いていただく。①</p> <p>○ 音読発表</p> <p>6. 豆太あてに手紙を書き、意見交流を行う。①</p> <p>○ 読み通しのめあてに対する自分の立てた予見のふり返り</p> <p>○ 豆太がどんな子であるかについての自分の考えの豆太あての手紙書き</p> <p>○ 書いた手紙の相互交流</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>自他の音読をふりかえり、豆太への考えをまとめようとしている。 (行動観察・学習プリント)</p>	<p>※ 日頃読み聞かせをしていただいている方に聞いていただく場を設定し、音読の工夫について評価していただくことにより、これからの音読への意欲につなげる。</p>

6. 本時目標

- 音読交流を通して自他のよさを見つけながら、さらに音読を工夫しようとする。
【関心・意欲・態度】
- 「豆太は見た」(前半)の場面の、暗い山道を医者様を呼びに駆け下りていく様子、豆太がじさまを助けようと必死な思いを読み取り、音読に生かし、聞き手を意識して適切な音量や速さで表現することができる。
【読むこと・言語事項】
- 自他の音読の工夫を比べて意見や感想を交流し、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付く。
【読むこと】

7. 本時指導の考え方

本時までには児童は、「モチモチの木」の「おくびょう豆太」「やい、木い」「霜月二十日のぼん」の三つの場面の様子や登場人物の気持ちについて読み取り、それらを伝えるための音読の仕方について考え、交流を行ってきた。読み方をどのように工夫するかを考えることを通して、豆太やじさま、語り手といった登場人物の気持ちに迫ったり、場面の様子をより鮮明に思い描いたりすることができてきている。また、音読を聞き合う交流を通して、自分と友たちの工夫の違いに気付き、よさを見つけ合っよりよい表現の仕方を追求しようとする意欲の高まりも見られる。

本時の学習場面については前時に、豆太やじさまの様子や気持ち、場面の情景を読み取らせ、それらを伝えるための音読の工夫点を音読記号を使って学習プリントにまとめさせ練習している。音読記号を用いることによって、自分が意識して読むところを視覚的に表し、場面の様子や登場人物の気持ちを伝える音読に役に立つとともに、自分と友だちを比べたり、友だちのよさを見つけたりする視点ともなると考える。

本時では、「モチモチの木」の四の場面「豆太は見た」の前半の場面において、一人ひとりの感じ方には違いがあることに気付かせ、互いのよさを生かしてよりよい表現の在り方を考えさせることをねらいとしている。そのために、互いの音読を聞き合い、よさについて感想や意見の交流を行えば、自分と友たちの感じ方や音読の工夫の共通点・相違点に気付き、それぞれのよさを生かしたよりよい音読の在り方を考えることができると思う。

まず、学習場面の①じさまの様子、②豆太の行動や様子や気持ち、③外の様子について話し合い、伝えたい場面の様子や登場人物の気持ちを交流させる。腹痛で苦しんでいるじさまの様子、じさまを助けようと暗く寒い山道を夢中で医者さまのところへ走る豆太のことが確認できるようにする。ここで確認したことが聞く人に伝わるような音読にしようという意欲を高めるとともに、聞く際の視点とさせ、めあてをつかませたい。

次に、代表の児童の音読を聞き、自分と比べながら感想や意見を交流させる。始めに確認した①②③が伝わってきたかどうか、もっと伝わるようにするためにはどのように工夫して音読をするのかを交流させたい。この交流をもとに自他のよさを生かしてもう一度読みの練習させ、よりよい表現の在り方を考えさせるようにする。

最後に、学習場面の豆太への手紙を書き、豆太に対する自分の考えをまとめさせる。場面ごとに書きためていく豆太への手紙が、単元終末で読み通しのめあてに立ち返って考えるときに役立てられるようにしたい。

8. 準 備

- (児 童) 四の場面「豆太は見た」(前半)(豆太は、真夜中に～なきなきふもとの医者さまへ走った)の音読工夫プリント
- (教 師) 四の場面「豆太は見た」の音読聞き取りプリント

9. 本時学習の展開

主な学習活動 と 内容	教師 の 支援
<p>※ 3分間音読タイム</p> <p>1. 本時のめあてをつくる。</p> <p>○ 学習場面の①じさまの様子②豆太の行動や様子と気持ち③外の様子についての話し合い</p> <p>--- 着目させたい語句 ---</p> <p>・真夜中に・ひよっと・くまのうなり声・「じさまあつ」・むちゅうで・しがみつこうとしたがじさまはいない・くまみたいに体を丸めてうなっていた・「じさまっ」・こわくて・びっくらして・とびついた・ころりとたたみに転げると・歯をくいしばって・ますますすごくなるだけ・「医者さまをよばなくっちゃ」・小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふたとばして・ねまきのまんま・はだして・半道もある・すごい屋で、月も出ていた</p> <p>・一面の真っ白い霧・雪みたい・霧が足にかみついた・血が出た・なきなき走った・いたくて、寒くて、こわかった・大すきなじさまの死んじまうほうが、もっとこわかった</p>	<p>※ 机間指導し、聞き手を意識して音読をしている子どもを認め励ます。</p> <p>※ 前時の学習をふり返り、四の場面「豆太は見た」(前半)の次の点をとらえることができるよう板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹痛で苦しんでいるじさまの様子 ・じさまを助けようと暗く寒い山道を夢中で医者さまのところへ走る豆太の行動と心情 <p>これらを聞き手に伝えることができるよう意欲を喚起するとともに、友だちの音読を聞く際の視点とし、めあてにつなげる。</p> <p>※ 着目させたい語句について想起させることができるよう、前時の学習内容を掲示しておく。</p>
<p>めあて</p> <p>音読の聞き合いをし、場面の様子や登場人物の気持ちが聞く人に伝わる読み方について話し合おう。</p>	
<p>2. 音読交流をする。</p> <p>○ 進め方の確認</p> <p>— 交流の進め方 —</p> <p>(1) 代表の音読者二人による発表 学習プリントをもとにどのような音読をするのかを説明してから音読をする。</p> <p>(2) 感想・意見交流 自分が捉えていた場面の様子、語り手・じさま・豆太の気持ちやそのための工夫と音読者と比べて感想やおたずねをする。 音読者の発表を受けて感想やおたずねをし、自他のよさを見つけたら、この場面についての考えを深めたりする。</p> <p>(3) 音読者の感想 交流をしての感想を二人の音読者が述べる。</p> <p>(4) 教師による感想 本時の交流について子どもたちのよさなどについてコメントする。</p> <p>○ 音読発表</p> <p>○ 意見交流</p>	<p>※ 自分の読み取った場面の様子や登場人物の気持ちと音読の工夫点を比べながら音読者の発表を聞かせ、自他のよさを見つけることができるようにする。</p> <p>※ 音読者が音読記号を記入したプリントを聞き手に配布し、音読者の工夫を見取れるようにする。自分との共通点や相違点を見つけることができるようにし、質問や感想が活発になるようにする。</p> <p>※ めあてづくりで確認した①②③に視点を当て、聞き手に伝わるように工夫することができていたか、もっとよく伝わるようにするためにはどのような読み方をするのかについて、意見交流をする。</p>
<p>3. となりの席の友だちと音読の交流を行う。</p> <p>○ 2. の意見交流を生かした音読</p> <p>評価規準</p> <p>【関・意・態】</p> <p>音読交流を通して、自他の音読のよさを見つけ、学習場面の①じさまの様子、②豆太の行動や様子と気持ち、③外の様子が伝わる読み方をさらに工夫しようとする。(音読, 行動観察, 学習プリント)</p>	<p>※ 交流を受けて、自他の音読のよさを生かして改めて工夫点を考えた音読を交流させるようにする。</p>
<p>4. 本時学習場面の豆太に手紙を書く。</p> <p>○ 腹痛に苦しむじさまを必死になって助けようとする豆太への感想を書き交流</p>	<p>※ 臆病だった豆太がじさまのために暗く寒い山道を走って医者さまをよびに行ったことをふり返り、豆太に対する思いをまとめさせる。</p> <p>※ これまでの音読や意見交流と比べ、よくなっているところを取り上げ今後の音読交流に意欲と自信がもてるようにする。</p>